

(7)活動の様子



写真3-7 講義の様子



写真3-8 発表の様子



写真3-9 ワークショップの様子



写真3-10 実習の様子



写真3-11 実習の様子



写真3-12 実習の様子

(8)活動主体によるこれまでの成果と今後の課題

これまでの成果として、カルネットなどの動きが出てきたこと、積極的に活動に参加する市民を企画から関わる事ができる動きをつくれたことと言える。

課題は、大学が苦手としているマーケティングである。受講生を集めるための宣伝がまだ模索段階であり、現在は受講生の口コミによる効果も大きいという。今後は受講生の口コミだけでは限界があるため、広報の方法をしっかりと考えていく必要がある。

3.2.3 地域教育の実践一事例3『ピノキオプロジェクト⁸』

【概要】

(1)活動発足の背景・経緯

2007年の秋にまちの次世代を担う子供たちを中心にしたアートイベントを行ったことがきっかけで、ピノキオ提唱者のエドアルドマラジジ氏と主催者であるアートイベント会社スパイラルがつながり、彼のピノキオプロジェクト（＝小さな物を集めて、試行錯誤しながら大きなピノキオ人形をつくる）を柏の葉バージョンで発展させ、子どもが街の中で試行錯誤しながら働く、という現在の活動のベースが出来た。

(2)概要と目的

ピノキオプロジェクト柏の葉とは、柏の葉まちづくりにおいて交流活動の一貫として位置づけられており、下記の目的を持って活動している。

①地域交流プログラム

新しいまちで育っていくコミュニティにとって、地域市民がお互いに身近に感じられるつながりを育むことが重要であるとし、地域の子どもを地域全体で育てるようなつながりを持つことが目的。

②教育プログラム

子どもの「自ら考え、行動し、失敗や成功を通して多くのことを学ぶ」という可能性を発揮し、子どもの心の中にある「知的好奇心」の芽を育て、「試行錯誤と実践」による体験をする目的。

2007年は「五感の学校」アートプロジェクトの一環として、まちそのものを学びの場としてとらえる活動であり、アート活動によって街の風景が新しくなるようなチャレンジをするものとして企画された。後にピノキオプロジェクトとして独立した。初回である2007年には、ロゴの作成、アーティストひびのこずえ⁹氏デザインによるユニホームの作成など、制作物にも力を入れた。（写真3-13～3-16）内容は「ピノキオ市場」「ピノキオメディアセンター」「ピノキオワークショップ」「ピノキオタウンデザイン」の4つであり、その後も少しずつ変化しながらも、2007年度から同様の企画が続いている。



写真3-13 ピノキオプロジェクトロゴ



写真3-14 お給料カード

⁸ ピノキオプロジェクト

イタリアでモンテッソーリの教育メソッドを背景に、アート活動を展開しているアーティストであり教育者でもあるエドアルド・マラジジ氏^{※2}によって展開されたアートプログラム。イタリアにおける子どもの教育で「ピノッキオ」と「モンテッソーリ」は重要なキーワードであるとし、ピノッキオは子どもたちが創造力を働かせながら、少しずつ自分の意識を高めてゆく姿を体現していく活動としている。

⁹ ひびのこずえ

コスチューム・アーティスト。東京芸術大学美術学部デザイン科視覚伝達デザイン卒業。

デビュー以来、広告、演劇、ダンス、バレエ、映画、テレビなど幅広い分野で活躍している。



写真3-15 ピノキオ帽子



写真3-16 ピノキオユニホーム

表3-6 ピノキオプロジェクト開催日、活動内容

開催年	2007	2008	2009	2010
開催日	10月27、30日、 11月1、2、3、4、8日	10月29、30日 11月8、13、15、16	10月4、11、12日	9月20、26日 10月7、8、9、10、11日
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ピノキオ市場 ・ピノキオメディアセンター ・ピノキオワークショップ ・ピノキオタウンデザイン ・アーティストトーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピノキオ市場 ・ピノキオワーキングプログラム ・ピノキオワークショップ ・ピノキオタウンデザイン ・はっぱっぱ体操ワークショップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピノキオマルシェ ・ピノキオ銀行 ・ピノキオカフェ ・ピノキオタウンデザイン ・ピノキオシティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピノキオマルシェ ・ピノキオシティ

(出典：ピノキオプロジェクト報告書2007～2010)

※2010年ピノキオ銀行、ピノキオカフェ、ピノキオタウンデザインはピノキオマルシェに含む

表3-7 ピノキオプロジェクト活動プログラム

プログラム	内容
・ピノキオ市場 (後にピノキオマルシェ)	コスチュームアーティストのひびのこずえによるピノキオの衣装を身にまとった子どもたちが、各会場のお店に出向き、「商売」を行うもの。
・ピノキオメディアセンター	東京大学柏の葉キャンパスや千葉大学フィールド科学センター、ららぽーと柏の葉など企業の舞台裏にピノキオが潜入する、ピノキオが新聞記者となってまちのニュースをピックアップするなど様々な職場体験をするもの。
・ピノキオワーキングプログラム	マルシェ開催前にピノキオグッズが大学や企業、病院での仕事体験をレポートにする事前イベント。
・ピノキオワークショップ	ピノキオプロジェクトの提唱者であるエドアルド・マラジジとインターネット回線を通じて行うワークショップ
・ピノキオタウンデザイン	アーティスト／イラストレーターの高橋信雅氏と一緒にららぽーとやピノキオシティに落書きをするワークショップ。アーティストという仕事を体験することが目的。
・はっぱっぱ体操	柏の葉で生まれた新しい体操。様々なクリエイターによってつくられた。 振付家斉藤美音子によるワークショップ。
・ピノキオ銀行	千葉銀行でピノキオがPi※の発行を行う。
・ピノキオカフェ	フードコーディネーターのプロデュースで行うイベントであり、事前にメニューの募集を行ない、子どもによる提案を実現し、ピノキオプロジェクトで提供する。
・ピノキオシティ	ピノキオプロジェクトの提唱者であるエドアルド・マラジジとピノキオリーディングメンバーの子どもたちがインターネットテレビを通じて「自由と夢の街・ピノキオシティ」構想をつくり、実際に制作したダンッボールのまち。

(出典：ピノキオプロジェクト報告書2007～2010)

※Pi ピノキオプロジェクトのみ利用できる通貨

(3)主催・後援・協力

2007年のアートイベントから展開したピノキオプロジェクトは、2008年から本格的に始動し、実行委員会を結成。しかし、2007寝年の枠組みはほとんど変わっていない。毎年実行委員会を立ち上げ、後援・協力のもと実行している。（表3-8を参照）

特記すべき点として、2008年からは三井不動産が主催から協力に移ったこと、NPO支援センターちばが協力から主催に移ったこと、2010年には協力企業が増えたことが挙げられる。

表3-8 ピノキオプロジェクト主催・後援・協力団体一覧

開催年	2007	2008	2009	2010
主催	ピノキオプロジェクト2007実行委員会 ・三井不動産株式会社 ・三井不動産レジデンシャル株式会社 ・ららぽーと柏の葉 ・UDCK ・株式会社読売広告社 ・スパイラル／株式会社ワコールアートセンター	ピノキオプロジェクト2008実行委員会 ・三井不動産レジデンシャル株式会社 ・NPO支援センターちば ・UDCK ・株式会社読売広告社 ・スパイラル／株式会社ワコールアートセンター	ピノキオプロジェクト2008実行委員会 ・三井不動産レジデンシャル株式会社 ・NPO支援センターちば ・UDCK ・株式会社読売広告社 ・スパイラル／株式会社ワコールアートセンター	ピノキオプロジェクト2008実行委員会 ・三井不動産レジデンシャル株式会社 ・NPO支援センターちば ・UDCK ・株式会社読売広告社 ・スパイラル／株式会社ワコールアートセンター
後援	柏市 柏市教育委員会 イタリア大使館	柏市 柏市教育委員会		
協力	・イタリア文化会館 ・東京大学空間計画研究室 ・首都圏新都市鉄道株式会社 ・柏商工会議所 ・千葉大学健康環境フィールドセンター ・株式会社トクシキ ・千葉銀行 ・TXアベニュー柏の葉 ・千葉日報 ・J: COM ・富士フィルムイメージング株式会社 ・株式会社学習社 ・かしわで ・樹杏 ・株式会社リョウゴク ・柏市市立幼稚園協会 ・NPO支援センターちば ・JOBANアートラインプロジェクト柏実行委員会 ・三協フロンティア株式会社 ・ふじようちえん ・NPO法人CANVAS ・湖北フラワーセンター	・三井不動産株式会社 ・パークシティ柏の葉キャンパス一番街管理組合 ・ららぽーと柏の葉 ・首都圏新都市鉄道株式会社 ・柏商工会議所 ・千葉大学健康環境フィールドセンター ・東京大学空間研究室 ・国立がんセンター東病院 ・千葉日報 ・J: COM ・三協フロンティア株式会社 ・協同組合バリスシステム千葉 ・日本理化学工業株式会社 ・千葉銀行 ・CANVAS ・日本マクドナルド株式会社 （柏の葉キャンパス駅前店）	・三井不動産株式会社 ・パークシティ柏の葉キャンパス一番街管理組合 ・ららぽーと柏の葉 ・首都圏新都市鉄道株式会社 ・柏商工会議所 ・江戸川大学社会学部ライフデザイン学科 科恵研究室 ・株式会社アロマックラボ ・アップルジャパン株式会社 ・辻中病院柏の葉 ・千葉銀行 ・日本マクドナルド株式会社 （柏の葉キャンパス駅前店） ・有限会社アートスペース ・JOBANアートラインプロジェクト柏実行委員会	・Books Kabos ・CAFE AGORA ・D-select ・J Fresh Bar ・MDAYS ・Right-on ・アルスメール ・江戸川大学社会学部ライフデザイン学科 （恵研究室・伊藤研究室） ・岡田印刷株式会社 ・柏商工会議所 ・株式会社ユニホームサービス ・千葉銀行 ・千葉銀行 ・島村楽器 ・首都圏新都市鉄道株式会社 ・生活協同組合バリスシステム千葉 ・タリーズコーヒー ・千葉日報 ・辻中病院柏の葉 ・東急ストアららぽーと柏の葉 ・日本マクドナルド株式会社（柏の葉キャンパス駅前店） ・パークシティ柏の葉キャンパス一番街管理組合 ・ビー★ポップ ・ふうりん堂 ・ぶれいらんど373 ・ベアハグ ・ペットハートステーション ・ボンジョールノ ・ミスタードーナツららぽーと柏の葉店 ・三井ショッピングパークららぽーと柏の葉 ・三井不動産株式会社 ・PARC ・マルシェコロール出店者 ・柏市立田中小学校のみなさん ・柏市立松葉第一小学校のみなさん ・ピノキオリーディングチームのご家族

（出典：ピノキオプロジェクト報告書2007～2010）

(4)組織体制

組織体制は三井不動産レジデンシャルの立案のもと、読売広告社を通じてスパイラルが実務の主導を担い、協力団体とともに運営を行っており、活動立ち上げの時期である2007年の体制を基本的には引き継いで行っている。（図3-10～13参照）

2008年を境に、NPO支援センターちばの一人がUDCKディレクターとなった背景や、マルシェ・コロールの運営をNPO支援センターちばに徐々に移行してきたことにより、プログラムの中で「ピノキオマルシェ」部門の運営はスパイラルとNPO支援センターちばの協働体制で進めるようになった。

また、特に注目すべき点として、2009年からは市民・住民（子ども／親）の主体的な参加を取り入れ、運営体制に「ピノキーリーディングメンバー」を創設した。

こうして活動立ち上げ期はスパイラルの主体的な運営体制であったが、徐々にNPOや市民との協働体制ができてきたことがわかった。



図3-10 2007年組織体制



図3-11 2008年組織体制

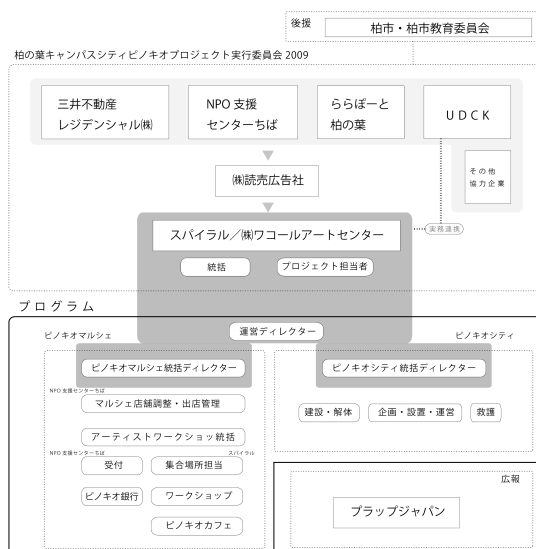


図3-12 2009年組織体制

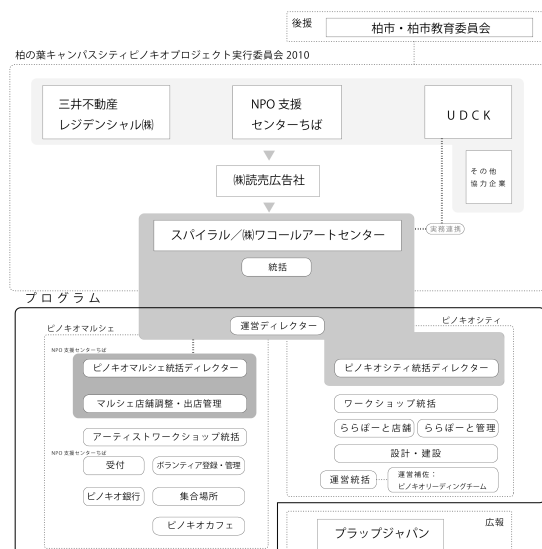


図3-13 2010年組織体制

（出典：ピノキオプロジェクト報告書2007～2010）

(5)広報活動（対象者、対象エリア）

表3-9 ピノキオプロジェクト広報

メール	メルマガ	チラシ	ポスター	広報誌	新聞	HP
過去の受講者	シビックネット ワーク	別記	TX	○	○	五感の学校

(6)過去の参加者、活動エリア

■参加人数の推移

過去の参加人数は2010年に最多数（延べ）約1万人近くの参加者を呼び、毎年多くの参加を記録している。（表3-10、図3-14）

過去の参加者（リーディングメンバーに限る）の分布を図3-15に示す。リーディングメンバーの分布に限られるため、参加者は柏市内が多いことがわかる。さらにその殆どが田中地域からの参加であることがわかる。

表3-10 ピノキオプロジェクト来場者数

開催年	2007	2008	2009	2010
来場者数 (合計)	5417	8668	5354	9838

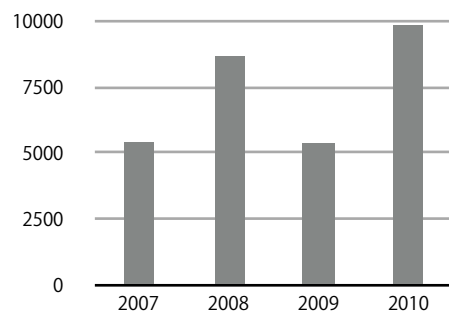


図3-14 ピノキオプロジェクト来場者数推移

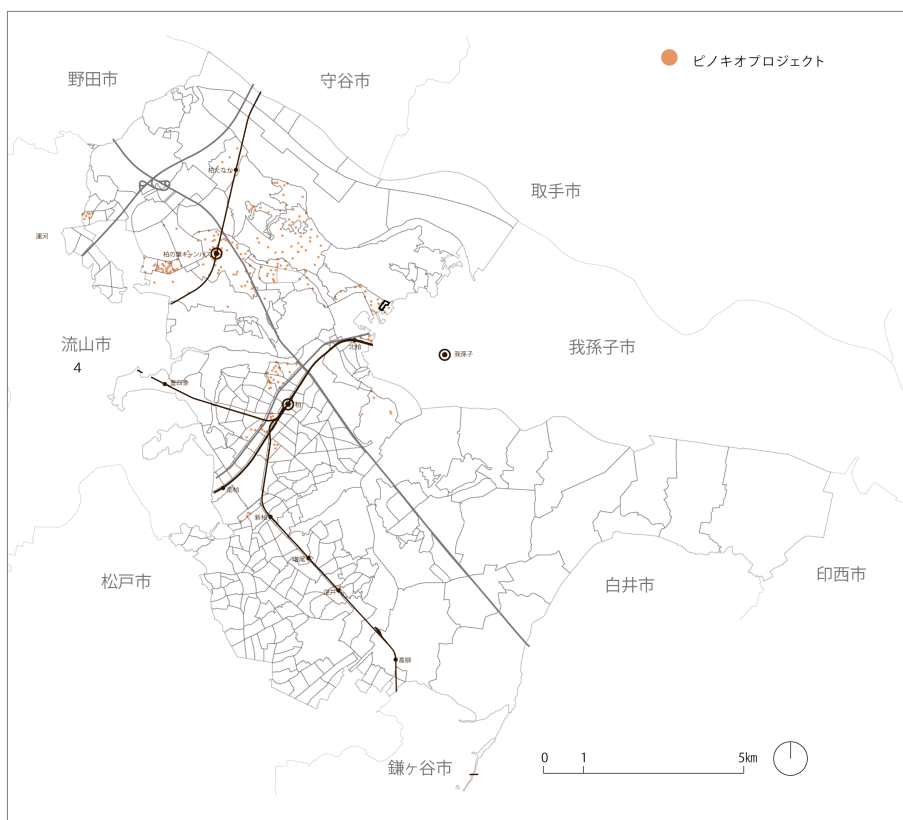


図3-15 ピノキオプロジェクト参加者分布